

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷六第

行發日一月三年七正六

論說

營業稅ノ課稅標準(二)……………法學博士 神戸 正雄

經濟的行爲ト道德的行爲ト關係(四)……………法學博士 田島 錦治

實質上ノ觀察ニ於テ植民地ノ分類…………… 山本美越 為

大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋……………法學士 本庄榮治 郎

露國ニ於ケルまゝのくす説ノ發達(二)…………… 米田庄太郎

社會學ト社會科學(三)……………文學士 高田 保馬

我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(二)……………文學士 銅直 勇

時事問題

取引所外ニ於ケル定期取引(二)……………法學博士 戸田 海市

勸業銀行ト農工銀行ト問題(二)……………法學士 河田 嗣郎

雜錄

獨逸經濟學界近況(三)…………… 米田庄太郎

米國ノ戰時租稅法(一)……………在 米 阿部 賢一

米國ノ戰時海運政策(二)……………法學士 岸本熊太郎

社會批評家ヲカあらいる(三)……………文學士 石田 憲次

暴利取締令ノ適用ニ就テ……………法學博士 神戸 正雄

和歌山縣	八〇	七五	阿波	八〇	七五	肥後	八〇	七五
兵庫縣	八〇	七五	讚岐	八〇	七五	大分	八〇	七五
岡山縣	八〇	七五	愛媛	八〇	七五	宮崎	八〇	七五
廣島縣	八〇	七五	土佐	八〇	七五	鹿兒島	八〇	七五
防長	八〇	七五	福岡	八〇	七五	沖繩	九〇	八五
島根縣	八〇	七五	佐賀	八〇	七五			
鳥取縣	八〇	七五	長崎	八〇	七五			

備考——(1)貸付金高ニヨリ七・五%迄ノ間ニ差等アリ、(2)七・三%迄ノ間ニ差等アリ、(3)七・〇%迄ノ間ニ差等アリ、(4)六・〇%迄ノ間ニ差等アリ、(5)組合其他ニ對スル貸付ハ七・七% (6)漁業、森林、畜産組合貸付ハ七・七% (7)耕地整理 漁業、畜産組合及其聯合會貸付ハ七・七% (8)耕地整理組合貸付ハ七・七%也

即チ大多數ノ農工銀行ニ於テハ個人及ビ會社ニ對スル年賦貸付ノ利率ハ年八分五厘、公共團體ニ對スル年賦貸付ハ年七分五厘ト云フ率デテル。然カモ其間ニ於テ地方ニヨリ前者ハ七分五厘乃至九分迄ノ差等ヲ有シ、後者ハ七分參厘乃至八分五厘迄ノ差等ヲ有シテ居ル。然ルニ勸業銀行ノ貸付利率ヲ見レバ最近(大正六年下半年)ニ於テハ個人及ビ會社ニ對スル年賦貸付ハ年七分、地方自治體ニ對スルモノハ六分五厘、耕地整理組合其他ノ組合ニ對スルモノハ六分八厘ト云フ率デテ全國平均シテ居ル。サレバ即チ勸業銀行ニヨル貸付ハ其ノ利率ノ全國均一ナル上ニ更ニ又大體ニ於テ農工銀行ノ貸付利率ヨリモ年一分方低位ニ在ルヲ見ル次第デアル。

尤モ右ニ點ニ關シ金利ノ全國均一ト云フコトハ一見機關ノ統一ニヨリテ生ズル利益ナルガ如クニ見ユルケレドモ、前表ニ就キテ之ヲ見ルモ己ニ明カナルガ如ク、現今農工銀行ノ間ニ於テモ左程大ナル金利ノ差等アルニハアラス、比較的好ク既ニ均齊トナリ居ル次第ナレバ、統一ニ由リ此

點ニ關シ生ズ可キ利便ハ決シテ多大ナルヲ得可キデハナイ。加之元來金利ハ地方ノ産業狀態其他一般ニ經濟發達ノ程度ノ異ルニ由リテ必ズヤ多少ハ地方ニヨリ差等アル可キ筈ノモノデアアルカ
ラ、必ズシモンガ人爲的ニ全國均一ノモノトセラルルガ有利ナリトハ斷ズルコトガ出來ヌノデア
ル。吾人ハ現今各府縣ノ農工銀行ノ間ニ之ヲ見ルガ如キ程度ノ金利ノ差等ハ之レ有ルコトが大イ
ナル國民經濟上ノ不便利ナリトハ信ズル能ハズ、此ガ均一ヲ齎シ得ンガ爲メニ他ノ大イナル不
便利ヲ忍ムデ全國農工銀行ノ併合統一ヲ行フ可キ理由トハナリ得ナイモノタルコトヲ斷言スル
ニ憚ラヌノデアアル。

然ルニ全國金利ノ平準ヲ得セシムルト云フコトヲ右ノ如ク全國之ヲ均一的ナラシメルト云フ意
味ニ解セズ、今若シ勸業銀行ニ依ル全國農工銀行ノ併合統一ノ行ハルルニ於テハ、支店制ノ巧妙
ナル働ニ由リ、資金ヲ餘レル地方ヨリ取リテ之ヲ不足セル地方ニ致シ、資金ノ需要ト供給トノ適
合狀態ヲ良好ナルモノタラシムルト同時ニ、以テ全國農工資金ノ利子ヲ地方々々ニ於ケル需給ノ調和セル實
狀ニ叶ヘルモノタラシムルト同時ニ、其ノ需給ノ過不及ニ由ル利率ノ不齊均ヲ救フヲ得可シト云
フ意味ニ解スルトスルナラバ、議論ハ今少シク尤モニ聞ユルコトトナル。而シテ此點ハ勸業銀行
ニ依ル統一ヲ行ハントスル者ガ、統一ヨリ生ズル最モ有利ナル結果ノ一ナリトシテ、甚ダ重キヲ
置ク所ノヤウデアアル。

ケレドモ少シク詳カニ之ヲ致フレバ此ノ見解ハ架空のモノタルニ過ギヌ。若シ勸業銀行ノ行
フ所ノ任務ガ純公益的ノモノデアツテ、恰モ行政の事務ニ似タルモノアリ、又例ヘバ國家ガ郵便ヤ

鐵道ノ業務ヲ經營スルガ如キ性質ノモノナラバ、經濟ノ發達セザル地方ニ對シテハ損失ヲ忍ビテモ郵便ヤ鐵道ヲ普及セシムルノ必要ヲ感ジ、敢テ之ヲ行フコトヲ辭セヌノデアルケレドモ、勸業銀行ノ業務ハ實際ニ於テハ斯クノ如ク純公益的ノ性質ノモノデハナク、ヤハリ公益半分營利半分ノモノデ、然カモ營利ノ目的ハソカ元來株式會社タル結果トシテ甚ダ重キヲ爲スモノナルカラニハ、今勸業銀行ガ一手ニ全國ノ農工金融ヲ行フコトトナラバ、勸業銀行ハ必ズギヤ手數少ク利益多ク業務上最モ都合好キ方面ニ主トシテ貸付ヲ行フコトトナリ、地方開發ノ公益的必要ノ爲メニ地方ニ貸付ヲ行フコトヲ多クセズシテ、貸付ノ最モ有利ナル大都市及ビ其ノ附近ニ之ヲ行フコトトナル可キヤ既述ノ通りデアアル。而シテ其ノ結果資金關係ニ於テハ決シテ論者ノ考フルガ如ク全國ノ需給調節ヲ見ルコト能ハズ、金利モ從テ又此ノ調節ノ爲メニ平準セラルルコトトハナリ得ナイノデアアル。斯クテ即チ勸業銀行ハ全國ノ農工金融ヲ統一獨占シ巧妙ナル支店制度ノ働ニ依テ全國内ノ農工資金ノ有無相通ノ結果ヲ齎ラシ得ルコトハ之レナク、必竟ズルニ勸業銀行ニ依ル全國農工金融ノ調節ト云フ大イナル國民經濟上ノ利益ハ事實上表ハレ來ルコトガ出來ヌノデアアル。斯クテハ此點ヨリ觀タル併合統一ノ利益ナルモノモ唯之レ架空のノモノタルニ外ナラス。

次ニ貸付金利ノ高低ト云フ點ニ就イテ攷フルニ、全國農工銀行ガ勸業銀行ニヨリテ併合統一セラレタル際ニ於テ、果シテ其ノ貸付利率ハ、現今農工銀行ガ多數獨立シテ直接及ビ代理貸付ヲ行フ場合ヨリモ低安トナリ得可キヤ否ヤニ就キテハ、相反スルニ様ノ意見ガ有ルヤウデアアル。即チ一方ノ意見テハ併合統一ニヨリ多數ノ本店銀行タル農工銀行ガ支店銀行トナルノ結果經費ノ節減ヲ

來タシ、貸付モ從テ幾分カ低安ニ行ハルルヲ得ルニ至ル可キデアルト主張シ、他方之ニ反スルモノハ決シテ然ラズト爲シ、現今農工銀行ノ分立ノ爲メニ生ズル餘分ノ經費ハ決シテ然カク多大ナルモノデハナイ、勸業銀行ガ今ノ各地農工銀行ヲ支店トシテ維持スルニシテモヤハリ相當ノ經費ハ之ヲ要スルノデアツテ、其ノ場合ノ經費ガ現今農工銀行分立ノ經費ニ比較シテ貸付金利ヲ低下セシムルニ足ルホド多ク節約セラル可シトハ考ヘラレヌ。而シテ試ニ現時行ハレツツアル勸業銀行ノ代理貸付ニ就イテ之ヲ見ルモ、目下全國農工銀行ノ要スル業務經費ハ凡ソ年額百六拾萬圓デアルカラ之ヲ直接貸付業務ト代理貸付業務トニ按分シテ見レバ後者ノ爲メニ要スル經費凡ソ年額七拾四萬圓ト見積ルコトガ出來ル。然ルニ今各農工銀行ガ代理貸付ニヨリテ得ル手數料ハ七拾六萬圓ニ過ギザレバ、現今代理貸付ニ依リ農工銀行ノ手ヲ經ルニ由リ生ズル經費ノ増加ハ年貳萬圓ニ過ギザル譯デアル。果シテ然ラバ現今勸業銀行ト借主トノ間ニ農工銀行ノ介在スルト云フコトハ經費ノ上ニ於テハ何程ノ事デモナイト主張スルノデアル。尙又現在全國農工銀行全部ノ一年間ニ必要トスル總經費ハ凡ソ貳百五拾萬圓ニシテ内百貳拾萬圓ハ諸稅ナレバ此額ハ併合後ト雖トモ節約スルヲ得可カラズ、唯ダ問題トナルハ給料ノ六拾萬圓ト旅費ノ拾貳萬圓ト雜費ノ參拾萬圓トナレドモ、旅費雜費ノ如キハ併合後ハ却ツテ増加スルコトアリトモ多ク減少セラルルヲ得ザル可ク、從テ若シ節約サレ得可キモノアラバ、ソハ給料六拾萬圓中ノ幾部分タルニ過ギザル可シトモセラルル次第デアル。

右經費ニ關スル議論ハ要スルニ之レ事實問題デアルカラ、實際併合統一ノ行ハレテ見タ上テナ

クテハ、何レトモ明確ナル判斷ヲ下スコトハ出來ヌ。併シ吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ、貸付金利ノ高低ヲ攷フルニ就ケテハ、勸業銀行ガ全國農工銀行ヲ統一シテ之ヲ爲スト現時ノ如ク多數農工銀行ノ分立シテ之ヲ爲ストヨリ生ズル經費ノ差額ト云フガ如キハ、何レニシテモ金利ノ高低ヲ決定スルニ足ルホド多額ノモノデアリ得ナイ筈デアアル。縱令今ノ各農工銀行ガ悉ク勸業銀行ノ支店トナツテ其爲メニ多少經費ノ節約サレ得ルモノアリトモ、ソハ重役ノ賞與金ヤ其他比較的重キヲ爲サヌ點ヨリ生ジ得ルニ過ギヌノデアルカラ、ソレガ貸付金利ヲ低下セシムルニ與リテ大イニ力アルホドノモノタルコトハ信ジ得ラレヌ。問題ハ寧ロ此點ニ存セズシテ他ニ存スル。即チ貸付金利ノ高低ヲ定ム可キ主タル原因ハドウシテモ銀行ガ其ノ貸付資金ヲ獲得スルニ就ケテ比較的低位ニ之ヲ獲得シ得ルヤ否ヤニ存セザルヲ得ナイ。而シテ之ヲ勸業銀行ヤ農工銀行ヤノ如キ特殊銀行ニ就キテ見レバ、貸出資金ノ主タル流入口ハ債券發行ニ存スルコト言フ俟タヌ所デアルカラ、ツマリ問題ハ勸業銀行ト農工銀行ト何レガ有利ニ又潤澤ニ債券發行ニ由リ資金ヲ吸收シ得ルカト云フコトニ歸着セザルヲ得ナイノデアアル。而シテ此ノ見地ヨリ之ヲ觀ルニ於テハ、所詮大ニシテ然カモ多クノ特權ヲ有スル勸業銀行ハ小ナル個々ノ農工銀行ヨリモ有利ニ且ツ潤澤ニ資金ヲ吸收シ得ルモノナルヲ信セザル譯ニハユカヌ。其ノ實狀ハ現今既ニ十分之ヲ實地ニ知ルヲ得ル所デアルカラ、此點ニ關シテハ多ク議論ノ生ジ得可キ餘地ハナイ。直接ニ政府ノ手厚キ庇護ノ下ニ然カモ種々ノ特權の地位ヲ有シ廣ク全國ヲ以テ其ノ營業範圍トスル勸業銀行ガ有スル信用ト、一府縣ヲ以テ其ノ營業區域トナスニ過ギザル農工銀行、特ニ田舎ノ貧弱ナル農工銀行ノ有スル信用トハ、トテ

厘ナリト見ルヲ至當トス可ク、之ニ反シテ勸業銀行ノ發行セル債券ノ各種平均利率ハ五分五厘ナリト見テ大過ナイデアラウ。果シテ然ラバ兩者ノ利率ハ凡ソ八厘ノ差ヲ有スル次第デアツテ、此點ニ於テ農工銀行ニ比シ勸業銀行ガ有利ノ地位ヲ占メツツアルハ之ヲ否定スルニ由モナイ。

サレバ吾人ハ勸業銀行ガ全國農工銀行ヲ併合統一シテ悉ク直接貸付ヲ行フコトトナレバ、其ガ資金獲得ニ有利ノ地位ヲ有スル理由ヨリシテ其ノ貸付モ現今農工銀行分立ノ狀態ノ下ニ於ケルヨリモ幾分之ヲ低利ニ爲シ得ル(爲シ得ルニ過ギズ、實際爲スカ爲サスカハ別ノ問題デアツテ、或ハ其ノ場合ニハ勸業銀行ハ農工銀行ノ競争ヲ免レ其得タル獨占的地位ヲ特ミテ却ツテ利率ノ引下ヲ行ハヌカモ知レヌガ)モノタルコトハ之ヲ肯定セザル可ラザルコトト信ズル。果シテ然リトスレバ此點ハ明カニ併合統一ノ齎ス利益トシテ之ヲ認メナケレバナラヌノデアル。然シ翻テ又之ヲ思ヘバ、今之ガ爲メニ多少金利ノ低下シ得ル餘地ハ之レアリトモ、其ガ果シテ現實ニ表ハレ來ルヤ否ヤノ甚ダ疑ハシキニ加ヘテ、縱令ソガ現實ニ表ハレ來リタリトスルモ、先ニ之ヲ詳論セシガ如ク、併合統一ノ結果ハ所詮一層貸付ノ都市及ビ其ノ附近ヘノ集中ヲ齎サザルヲ得ズ、又ソガ大口ニ扁スルヲ避ケ難キモノナリトスレバ、其ノ金利低下ノ恩惠ニ浴スル者ハ唯ダ大都市ニ在ル大企業家及ビ大地所持ノ類ニ過ギズシテ、地方ノ中小農工業者ノ如キハ何等其惠ニ浴シ能ハザルモノタルノ外ハナイ。斯クノ如クンバ即チ地方ノ中小農業者ヨリ之ヲ云ヘバ、多少金利ハ低安ナルヲ得ザルモノアリトモ、ヤハリ各府縣ニ一個ヅツノ獨立ナル農工銀行ノ存續シテ地方的貸出ヲ行ツテ莫ルルヲ以テ有利ナリトシ、現行ノ制度ヲ持續スル上ニ利益ヲ認メナケレバナラヌノデアル。

サレバ吾人ハ今若シ勸業銀行ヲシテ益々以テ單純ナル普通ノ抵當銀行タラシムルヲ意トシナイト云フノナラバ、全國農工銀行ノ併合統一ヲ行ハシメテ、利率ノ統一ト金利ノ低下トヲ計ラシムルモ好イデアラウガ、苟モ之ヲ以テ依然トシテ農工金融ノ機關タラシメ、國民經濟上ニ於ケル與ヘラレタル任務ヲ行ハシムルヲ可トシ、之ヲ希望シ、又益々其組織ヲ改善シテ其勳ヲ有効ナラシムルヲ以テ戰後經營ノ一端トモ爲サントスルト云フノナラバ、統一ニ由リテ生ズル利益ハ所詮之ニ由リテ生ズル不利益ヲ償フニ足ラザルヲ知ラナケレバナラヌノデアアル。

五 改 善 策

以上論ズル所ニ依リテ吾人ハ我國ニ於ケル農工金融機關ヲ集中統一シ全ク佛國ノ例ニ倣ハシムルコトハ、臆テ又其弊ニ於テモ之ニ倣フコトトナル可キヲ恐ルル者デアアル。今若シ勸業銀行ヲシテ府縣農工銀行ヲ併合統一セシムルアラバ、勸業銀行ハ益々以テ普通ノ抵當銀行化スルニ至リテ農工企業ノ爲メニ設ケラレタル當初ノ任務ニハ漸次ニ益々遠ザカルコトトナリ、貸付ハ都市及び其ノ附近ニ集中セラレ然カモ大口貸付ガ主タルニ至リ、地方ノ中小農工業者ハ殆ンド多ク之ヲ利用シ能ハザルニ至ル可キヲ信ゼザルヲ得ナイ。サレバ吾人ハ我國ニ於ケル勸業銀行及び農工銀行ハヤハリ其ノ存立ノ主タル目的及び任務ニ於テハ農工企業ニ對スル金融機關タルノ面目ヲ維持セシメ、其ノ組織ハ又之ヲ現狀ノ儘ニシテ各々獨立分在セシメ、依然トシテ地方分權ノ在來ノ制度ヲ維持スルヲ以テ可ナリトスル者デアアル。

併シ乍ラ之ヲ分立セシムルニ於テハ現今之ヲ見ルガ如ク、勸業銀行ト農工銀行トノ業務ガ或方面ニ於テ衝突シ少クトモ利益ノ多少抵觸スルモノアルヲ免レズ、面倒ナル問題ノ動モスレバ兩者間ニ生ゼザルヲ得ナイ次第アルカラ、此ノ利益ノ抵觸ヲ防グガ爲メニハ、此秋ニ當リテ少シク制度組織ヲ改メ同時ニ又之ニ由リテ兩者ガ農工金融機關トシテ有スル任務ヲ果スガ上ニ其働ヲシテ十分ナルヲ得セシメ、特ニハ從來兎角其議ヲ免レザリシ農工銀行ノ(少數ナルモノハ勿論例外デアルガ)業務不振ノ状態ヲ救ヒ向後益々其働ヲシテ有効ナラシメ、地方ニ於ケル中小農工業者ニ對シテ簡便ニシテ又潤澤ナル資金融通ヲ爲スヲ得セシメナケレバナラス。而シテ是ハ實ニ當面ノ必要デアル。

然ラバ如何ニスレバ果シテ能ク右ノ目的ニ叶フガ如キ改正ヲ現制度ノ基礎ノ上ニ爲スヲ得ルカト云フニ、是ハ洵ニ困難ナ問題デアツテ、最モ正當ニシテ且ツ最モ有効ナル最上ノ方策ハ誰シモ俄カニ之ヲ立シ得可キデナイガ、先ツ此際實行シ得可クシテ且ツ有効ナリト思ハルモノハ全ク之レナキ譯デハナイ。而シテ其ノ方策ハ一ニシテ盡キズ、相似タルモノノ少カラズ立シ得ラルル次第デアルガ、就中吾人ハ左ノ如ク之ヲ爲スヲ以テ此際甚ダ當ヲ得タルモノカト信ズル。

即チ勸業銀行ト農工銀行トノ關係ニ於テハ前者ハ後者ニ對シテ飽迄親銀行タルノ地位ニ在ラシメ、組織及ビ實際ノ活動ニ之ガ競争銀行タルコトナカラシムルヲ以テ眼目トナシ、其爲メニハ勸業銀行ハ主トシテ各農工銀行ニ對スル資金供給機關タラシムルヲ以テ其ノ主タル任務ト爲シ、之ニ必要ナル改正ヲ法律及ビ定款ノ上ニ行フコト之デアル。蓋シ既述ノ如ク勸業銀行ハ農工銀行ニ比

スレバ債券ノ發行其他ニヨル資金吸收ヲ爲スニ就キテ大イナル便宜ヲ有スルニ反シテ、貸出ノ方面ニ於テハ兎角地方ノ隅々迄手ヲ伸バシテ中小農工業者ノ如キニ迄行届キタル貸出ヲ爲シ難キ事情ヲ有スル次第デ、貸出ノ點ニ關シテハ地方ニ其地盤ヲ有スル農工銀行ガ便宜ヲ有スル所ナレバ、兩者ハ此ノ各ノ長所ニ依リテ分業ヲ行フヲ以テ最モ其ノ所ヲ得タルモノトナスガ故デアアル。此ノ分業ニ依リテ一方ハ主トシテ資金吸收機關タリ他方ハ資金貸付ヲ主トスル機關タルコトトナラバ之ヲ國民經濟上ヨリ見テ甚ダ整ヘル然カモ其働ノ有効ナル機關タルコトヲ得可キ筈デアアル。

而シテ勸業銀行ヲシテ主トシテ資金吸收機關タラシメ農工銀行ニ對シテ之ガ貸付資源ノ供給機關タラシムルガ爲メニハ、此際法律及ビ定款ヲ改正シテ其ノ債券發行權ヲ擴張セシムルヲ必要トスル。勸業銀行ガ資金ヲ吸收ス可キ主タル泉源ハドウジテモ債券ノ發行ニ存セザルヲ得ナイノデアルカラ、今其ノ資金吸收力ヲ大ナラシメ農工銀行ニ對シテ十分ナル資源供給ヲ爲シ、之ヲシテ從來ノ貸付不振業資枯渴ノ境ヲ脱セシメ、十分ナル貸付上ノ活動ヲ爲スヲ得セシメンガ爲メニハ、吾人ハ勸業銀行ノ債券發行權ヲ現今ノ二倍ニ擴張セシムルヲ必要ナリト信ズル。即チ現今日本勸業銀行ノ債券發行權ハ其ノ拂込資本額ノ十倍ト限ラレテアルガ之ハ佛蘭西ノ如キニ於テモ佛蘭西土地銀行^{ソノト、フランス}ノ發行權ハ拂込資本額ノ二十倍迄トセラレテアル次第デアルカラ、我國ニ於テモ之ヲ二十倍ト爲スコトハ決シテ不穩當デモナケレバ又格別危險ヲ伴フモノデモナイ。何トナレバ之ヲ二十倍トナストモ一方ニ於テハ依然トシテ其ノ發行總額ハ年賦償還貸付金總高、定期償還貸付金總高及ビ其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルヲ得ザラシムルノ制限ハ之ヲ存シ置ク可キモノデ

アルカラ、此ノ發行權擴張ノ爲メニ何等債券所持者ノ利益ニ對シテ危險ヲ生ゼシムル恐ハナイノ
デアル。元來債券發行權ノ範圍ヲ拂込資本額ノ十倍ト定メタノハ、我が國民經濟發達ノ狀態ガ未
ダ現今ノ如ク十分ナルヲ得ザリシ事情ニ適應シテノコトデアルカラ、國民經濟狀態ノ大イニ發達
セル現今ニ於テ之ヲ擴ゲテ其ノ二十倍タラシムルハ寧ロ適當デアアル。

斯ク勸業銀行ノ債券發行權ヲ擴張セシムル以上ハ次ニハ勸業銀行ヲシテ農工銀行ニ對スル貸付
資源供給機關タルノ任務ヲ盡サシムル必要上、其ノ農工債券引受ヲ十分ニ行ハシムルヲ必要トス
ル。現今ニテハ勸業銀行ハ定款ニ於テ農工債券ノ引受ハ發行高ノ三分一ヲ超過セザルモノト定メ
テ居ルガ故ニ即チ之ヲ改メシメテ斯カル制限ヲ廢シ、努メテ之ヲ引受ケシメ、又債券ノ一般賣出發
行ニ便宜少キ地方ニ在ル農工銀行ノ發行ニ係ルモノハ特ニ努メテ之ヲ勸業銀行ニ於テ引受クルコ
トトスルヲ可トスルノデアアル。斯クスルニ於テハ農工銀行ハ勸業銀行アルガ爲メニ潤澤ニ其ノ貸
付資源ヲ得、其ノ貸付ハ從テ行届キテ行ハルルコトトナリ、從來ノ如ク時々或農工銀行無能ノ議
ヲ聞クコトモナクナリ、兎モ角其ノ國民經濟上ニ負フ任務ヲ盡スニ於テ現狀ヨリモ大イニ成績ヲ
上ゲ得ルニ至ル可キヤ明カデアアル。而シテ次ニ勸業銀行ガ資金供給機關トシテ農工銀行ニ對シ大
イニ其債券引受ヲ爲スコトトスル以上ハ、農工銀行ノ債券發行權ハ之ヲ如何ニスルカト云フ問題
ノ生ジ來ル次第デアアルガ、此レハ從來ノ如ク依然其ノ發行ヲ爲シ得ルモノトシテ置イテ少シモ差
支ナキコトト信ズル。元來各府縣ノ農工銀行ハ其ノ最モ有爲ナルモノト雖ドモ之ヲ勸業銀行ニ比
スレバ其ノ信用ニ於テ到底比敵タルモノニアラザレバ、其ノ債券發行權ヲ認ムルトモソカ勸業銀

行ニ對スル競争トナリ其ノ債券ノ賣行ヲ妨グルガ如キコトハ多ク有リ得ナイ。加之各農工銀行ニ依然トシテ債券發行權ヲ認メテ置ケバ、就中有爲ニシテ信用厚キモノハ獨力ニテ貸付資源ヲ造リ得ル所多カル可ク、從テ其レダケハ勸業銀行ハ之等ニ向ケ可キ資金ヲ他ノ債券ノ獨力發行ニ十分ノ成績ヲ上ゲ得ザル農工銀行ニ向クルヲ得ルコトナリ、必竟全般ニ於テ全國ノ農工貸付資金ハ之ガ爲メニ潤澤トナリ得ル次第デアル。サレバ農工銀行ヲシテ依然農工債券ノ獨力發行ヲ許スハ弊ナクシテ利ノ認ム可キモノアリトセナケレバナラス。

扱テ右ノ如クシテ分業的ニ勸業銀行ハ資金吸收機關タラシメ各府縣ノ農工銀行ハ資金貸出機關タラシムルトスルモ、之ハタダ大體ニ於テノ任務ノ區別タルコトヲ忘レテハナラス。サレバ即チ次ニ來ル可キ問題ハ勸業銀行ノ貸出ヲ如何ニス可キヤト云フコト之デアツテ、然モ現今此點ニ關シテ農工銀行トノ間ニ利益ノ抵觸ノ生ジツアルコト既述ノ如クデアル。若シ之ヲ極端ニ致ヘ又理想的ニ致フルナラバ、勸業銀行ハ農工銀行ノ貸出資金調達機關タル可シトスルナラバ、勸業銀行ハ一般經濟界ニ對スル貸付業務ハ全然之ヲ行ハヌコトトスルヲ以テ最モ意義分明ナリトセナケレバナラス。然シ是ハソウ極端ニ致ヘル必要ハ勿論ナイ。勸業銀行ハ固ヨリ其ノ主タル任務ハ農工銀行ニ對スル資金供給機關タリトスルモ、其業務ノ一部分トシテ一般經濟界ニ對スル貸付ヲ爲スハ毫モ妨ザル所タルノミナラス、之ガ爲メニ國民經濟上ニ生ズル利便ハ決シテ少クナイ。要ハ唯ダ之ニ由リテ農工銀行トノ間ニ業務上ノ競争ヲ生ズルヲ防グノ方法ヲ講ズレバ即チ足ルノデアル。茲ニ於テカ之ヲ防グ可キ道トシアハ、勸業銀行ト各農工銀行トノ一般貸付ニ關スル一口ノ金高制

限ヲ設ケ、勸業銀行ハ一定金額以上ノ大口貸付ニアラザレバ直接貸付ヲ行ハヌコトトスレバ可イノデアアル。而シテ此ノ制限ハ全國一律ニ之ヲ定ムルコトハ却ツテ杓子定規ニ流レテ實際ノ必要ニ適應シ難イ次第デアアルカラ、之ヲ勸業銀行ト各農工銀行トノ間ニ於ケル個別的ノ規約ニ依リテ定ムルコトトシタラ可カラウト云フ意見ハ穩當ノ意見ト云ハネバナラヌ。而シテ其ノ個別的ナル協定ノ成立シ得ザル事情アル場合及ビ地方ニ對シテハ、大藏大臣ガ之ヲ決定スル外ニ道ナキハ勿論ノコトデアアル。然シ兎モ角或ハ協定的ニ或ハ主務大臣ノ決定ニヨリ此ノ一口貸付金額ヲ定ムルト云フコトハ餘リ面倒ナ事デハナク、又其間ニ大イナル弊害ノ生ジ來ル可シトモ思ハレヌ所タルニ、之ガ爲メニ勸業銀行ト農工銀行トノ間ニ業務上ノ競争ノ起ルコトハ之ヲ避ケ得ル次第デアアルカラ、此ノ方面モ亦分業的ニ前者ハ主トシテ大口貸付ヲ爲シ然カモ其ハ自然ト都市及ビ其ノ附近ニ於テ之ヲ爲スコトトナリ、後者ハ主トシテ地方ノ中小農工業者ニ貸付ヲ行フコトトナレバ、結局之ヲ國民經濟上ニ於ケル一系統ノ金融機關トシテハ兩者ノ行フ所應テ之レ全體トシテ機關ノ圓滿ニシテ而カモ有効ナル働トナリ得ル次第デアアル。

然シソレニ就ケテモ吳々モ希望セナケレバナラヌコトハ、斯ク業務上ニ於ケル區別ヲ設クルカラニハ勸業銀行ハ飽迄モ各農工銀行ニ對シテ親銀行タルノ地位ヲ自覺シテ其任務ヲ守リ、農工銀行ハ又之ニ對シテ子銀行トシテ其地位ニ伴フ任務ヲ盡スニ遺憾ナキヲ期セザル可ラズ、兩者ノ關係ハ現狀ヨリモ更ニ一層親密ノモノトナルノデアアルカラ其關係ヨリ出デ來ル兩者ノ機能ヲ圓滿有効ニ働カスニ盡力シナケレバナラヌコト之デアアル。而シテ又同時ニ勸業銀行ト云ヒ農工銀行ト云

ト共ニ之レ單純ナル營利會社ニアラズ、頗ル公共的任務ヲ負フコトノ大ナルモノニテ、其爲メニ
コソ即チ國家ヨリ特別ノ保護ヲ受ケ居ル次第ナレバ、必ズヤ其恩顧ニ孤負セザルヲ期シ、營利ハ
第二位第三位ニ之ヲ置キテ農工資金ノ健實ナル融通ニヨリ其ノ普及ヲ計リ以テ我國產業ノ基礎ヲ
養フニ貢獻スル所ガナクテハナラス。若シ此點ノ忘却サレテ營利之レ目的トナスニ於テハ百ノ改
善策モ必竟無意義タラザルヲ得ナイ。此點ハ吾人ノ特ニ高唱スルヲ禁ジ能ハザル所デアアル。

凡ベテ以上指示スル所ハ改正策トシテハ何レモ皆根本的ノモノデハナク妥協的性質ノモノタル
ニ過ギスケレドモ、吾人ハ元來大體ノ制度及ビ組織ニ於テハ現狀ノ儘ニ勸業銀行ト各農工銀行ト
ノ分立ニヨル地方分權制ヲ可トスルコト先ニ論ゼシ如クデアアルカラ、此ノ根本組織ニ於ケル現狀
維持ヲ可トスル限リハ、問題ハタダ如何ニシテ其ノ不都合ナル部分ヲ改善シ機關全體トシテノ機
能ヲ圓滑有効ナラシメ得可キカト云フコトト爲リ、從テ善後策ハ唯ダ之レ改良策トナルニ過ギズ
改革策トハナリ得ナイノデアアル。而シテ吾人ハ此問題ニ關シテハ農工銀行ノ併合統一ヲ行フト云
フガ如キ改革策ヨリモ、右等示スガ如キ改良策ヲ施スヲ以テ有利ナリト信ゼザルヲ得ナイノデア
アル。兎角物事ヲ輕卒ニ創メテ見テハ又輕卒ニ改變シ成績ノ上ガルヲ待ヅノ暇モナク、忍耐ト努力
トヲ缺イデ只管新規ニ走り、終ニ何事ニモ徹底シ得ザルノ嫌アルハ我が國民性ノ缺點ト謂ハネバ
ナラス。吾人ハ此問題ニ關シテモ今少シク忍耐シテ農工金融機關トシテ創メラレタル勸業銀行ト
各農工銀行トハ之ヲシテ飽迄其名ト實トニ叶ヘル發達ヲ遂ゲシメタイモノダト思フ。又此際之ガ
併合統一ヲ行ハシメテ益々之ヲ驅ツテ普通抵當銀行化セシムルノ必要ハナイト思フ。而シテ問題

ハタダ一時的ニ勸業銀行ト農工銀行トノ業務上ノ然カモ營業上ノ利益ノ抵觸ヲ除クト云フガ如キ小ナル意義ノモノデハナクシテ、我ガ中小農工企業ノ將來ノ運命ニモ關ハル國家的ナル重大意義ヲ有スル問題タルコトヲ忘レテハナラヌノデアル。從テ其ノ解決モ此ノ觀點ヨリ之ヲ求メナケレバナラヌノデアル。

六 改 革 策

右吾人ノ贊成セムトスル所ノ改善策ハ、之ヲ農工金融機關ノ組織トシテ見レバ、其ハ飽迄地方分權的デアツテ然カモ大體ニ於テ現狀ヲ維持シ唯ダ現狀ノ大イナル不便トスル點ヲ少シク改良セムトスルモノタルニ過ギヌ。然ルニ又或者ニ至リテハ現狀維持ニ對スル此程度ノ改良ヲ以テシテハ問題ヲ解決スルニ足ラズト爲シ、然カモ又徹底的ニ現狀ヲ打破シテ併合統一ヲ強制シ全國ニ唯一ノ機關ヲ設ク可シト主張スル迄ニハ至ラズ、中央集權主義ト地方分權主義トノ姑媳ナル折衷策ヲ試ミ、勸業銀行及ビ農工銀行ノ合意ニ由リ又多數農工銀行相互間ノ合意ニ依リ、任意的ナル合併ヲ行ハシメムトスル者ガアル。而シテ其ノ任意的併合タルヤ一方ニ於テ勸業銀行ト農工銀行トノ合併ヲ認ムルト同時ニ、他方ニ於テハ又農工銀行相互間ノ合併ヲ認メ、農工銀行ニ對シテハ、勸業銀行ト合併セムトスル者ハ之ニ合併セヨ、又相互間ノ併合ヲ行ハント欲スル者ハ之ヲ行ヘヨ、尙又兩種ノ併合其ノ何レヲモ希ハズ寧ロ變ジテ普通銀行タラント欲スル者アラバソレモ可ナルベシ、何レトモ唯ダ任意ニ之ヲ行フテ可ナリトノ態度ヲ取ラントスル者ガアル。

問題解決ニ處スル此ノ立場ハ洵ニ之レ不徹底極マルモノデアツテ、其策ハ實ニ之レ姑息ナル折衷策ト謂ハネバナラヌ。蓋シ合併ヲ斯クノ如ク任意ト爲スコトハ、一見各當事者ノ意思ヲ尊重スル穩當ナル策タルガ如クデアルケレドモ、元來此種ノ國家的政策ヲ斷ズルニ當リテ斯ノ如キ曖昧ナル態度ヲ持スルコトハ許サル可キモノデナイ。中央集權制可ナリト信ズルナラバ斷乎トシテ之ヲ行フ可ク、分權制度可ナリト信ズルナラバ又斷々乎トシテ之ヲ行ヒ、以テ制度及ビ組織ニ於テハ一定ノ主義方針ニ基ク規律ヲ定メナクテハナラヌ。今若シ斯カル任意的處置ヲ取ラシメントスルニ於テハ、結果ハ必ズ豫期ニ反シ、制度ヲシテ益々不健全ナルモノタラシムルニ至ルヲ免レ難イデアラウ。

即チ先ヅ勸業銀行ト農工銀行トノ任意合併ヲ行ハシメントスルニ於テハ種々ノ困難ハ這間ニ生ジ來ラザルヲ得ズ、勸業銀行側ニ於テハ現今既ニ相當ノ成績ヲ上ゲツツアル有力ナル農工銀行トハ併合スルヲ欲ス可キモ、斯カル農工銀行ハ獨力ニテモ能ク自立シ得可キモノナルガ故ニ、頗ル有利ナル條件ノ下ニアラザレバ敢テ併合ニ應ズルコトナカル可キヤ明デアル。然ルニ之ニ反シテ僻遠ノ地方ニ在ル事業不振ノ農工銀行ノ如キハ大ニ喜ムデ勸業銀行トノ併合ヲ行ハント欲ス可キモ、之等不振ノ銀行ヲ背負込ムコトハ勸業銀行ノ決シテ喜ブ所ニアラス、勸業銀行トシテハ此等ノモノヲ併合セムヨリモ寧ロ其等ノ地方ニハ新タニ支店ヲ設置スルコトノ寧ロ費用少クシテ便宜多キヲ思フデアラウ。斯クテ此種ノ貧弱ナル小農工銀行ハ一方ニ於テハ勸業銀行ノ壓迫ヲ被リ他方ニ於テハ又營業區域撤廢ノ結果トシテ他ノ有力ナル大農工銀行ノ競争ヲ被リ、到底存立スルヲ

得ズシテ憐レナル滅亡ヲ爲スノ外ナキニ至ルデアラウ。斯クテ即チ此種ノ任意併合ヲ行ハシムルノ政策ハ、優勝劣敗ノ慘劇ヲ隨所ニ演ゼシムルコトトナリ、實ニ其ノ結果ニ於テハサナキダニ存續ノ困難ナル田舎ノ小農工銀行ヲシテ無慘ナル最後ヲ遂ゲシメ、國家ハ此等ヲ見殺ニスルコトトナラザルヲ得ナイノデアアル。

次ニ又農工銀行相互間ノ合併ト云フ點ニ就キテ見ルニ、タトヘ何レト何レノ農工銀行ガ合併スルニシテ見テモ新ニ生ズル銀行ハ其ノ資力信用等ニ於テ從來ノ農工銀行トシテノ資力信用ニ對スレバ大イニ有力ノモノトナリ得ルケレドモ、之ヲ日本勸業銀行ナルモノト對比スレバ依然トシテ微力ナル小銀行タルヲ免レズ、殊ニ後者ガ手厚キ政府ノ保護ノ下ニ諸種ノ特權ヲ擁シテ立テルト到底競争ヲ爲シ得可キモノデハナイ。茲ニ於テカ此種ノ併合ヲシテ可能ナラシメ合併シタル農工銀行ヲシテ能ク存立スルヲ得セシメンガ爲メニハ、必ズヤ勸業銀行トノ競争ヲ避ケ得テ其獨特ノ立場ヲ持スルヲ得セシメナクテハナラヌ必要ガ生スル。此必要ノ爲メニハ此種ノ案ニ於テハ勸業銀行ハ主トシテ之レ農工金融機關タレバ其ノ貸付ハ市街地ヲ主トセズ、唯ダ總貸付額ノ小部分(例ヘバ四分ノ一)ニ限リテ之ヲ爲スヲ得ルモノトシテ其ノ都市貸付ヲ制限シ、然カモ他方農工銀行ノ市街地貸付制限ヲ撤廢シテ之ヲ自由ナラシムルコトトナラザルヲ得ナイノデアアル。

日本勸業銀行ノ貸付ヲバ主トシテ農工方面ニ行ハシメ其ノ市街地貸付ヲ制限セムトスルニハ他ニモ理由ノアルコトデ、特ニ其ノ貸付資金ガ割増付債券ノ發行ニ由リテ得ラレタルモノハ之ヲ都市貸付ニ用ユルヲ得ザラシムルコトトスルノ必要ノ存スルコトデアラウガ、然シ元來右ノ如ク勸

業銀行ヲシテ農工金融ヲ司ラシメ農工銀行ヲシテ一般不動産銀行化セシメントスル策ハ、實ニ條理轉倒ノ策ト謂ハネバナラヌ、正ニ理論ノ當然トスル所ヲアベコベニ行カントスルモノデアル。

元來農業金融ト云フモノハ既ニ之ヲ詳論シタルガ如ク、各地方々々ノ實狀ニ應ジテ適宜ナル貸付ヲ爲シ、又地方ノ隅々マデ行渡レル資金融通ヲ爲シテ、地方ノ開發ニ盡サナケレバナラヌモノデアルカラ、其ノ金融機關ハ地方分權的ニ諸所ニ根據ヲ有スル地方的機關タラシムルガ正當デア。之ニ反シテ市街地ノ抵當金融ハ抵當地ノ評價モ簡單ナレバ貸付モ簡便ニ行ハルルヲ得、又其需要サルル資金ノ性質カラ之ヲ見テモ、決シテ其ノ金融機關ガ其地ニ根據ヲ有スルモノタラザル可ラザル必要ハナイ。市街地抵當金融機關ハ全國ヲ統一セル唯一ノ中央集權制ノモノデアツテモ多クノ不便ト幣害トノ這間ニ生ジ來ル恐ハナイノデア。サレバ中央集權的ナル勸業銀行ヲシテ主トシテ市街地貸付ヲ行ハシメ、農工銀行ヲシテハ農工業ニ對スル地方的貸付ヲ行ハシムルト云フノナラバ寧ロ條理ニ合ツテ居ルケレドモ、之ヲ反對ニ前者ヲシテ主トシテ地方的貸付ヲ行ハシメ後者ヲシテ市街地貸付ヲ行ハシメントスルニ至ツテハ、甚ダ以テ其ノ意ヲ得ナイ。惟フニ之ハ勸業銀行ヲシテ市街地貸付ヲ主タラシムルニ於テハ、其ガ割増付債券ニ由リテ資金ヲ得ル事ニ對シテ不都合ヲ生ジ、此ノ特權ハ元來農工業ヲ開發シ之ヲ發達セシムルニ必要ナレバトノ理由ニヨリテ與ヘラレタルモノナレバ、今之ヲ市街地貸付ニ用ヒシムルハ不都合ナリトシテノコトデアラウ。果シテ然リトスレバ之レ即チ或ル附隨ノ事柄ノ爲メニ其ノ本來ノ事柄ヲ變更セムトスルモノデアツテ、等シク又條理ニ戻ツテ居ル。農工業ノ地方的貸付ヲ爲スニハ地方分權的ノ金融機關ニ

ヨリテ之ヲ行ハシムルガ可ナル限リ若シ最非トモ勸業銀行ト農工銀行トノ業務ヲ全然分離セシメ
兩者ヲシテ分業的ニ市街地ト田舎地方トニ對スル貸付ヲ分掌セシムルノ必要アリトナラバ、割増
付債券發行ノ特權ハ之ヲ勸業銀行ノ手ヨリ取りテ農工銀行ノ手ニ與ヘ以テ之ヲシテ地方ノ産業發
達ノ爲メニ大ニ盡力セシム可キデアル。

斯ク謂ヘバトテ吾人ハ決シテ今此ノ特權ヲ勸業銀行ノ手ヨリ取りテ農工銀行ノ手ニ與ヘヨト主
張スル者デハナイ。之ハ吾人ノ先ニ論明セル議論ノ主旨ヨリシテモ明カナコトデ、吾人ハ此ノ特
權ハ依然トシテ勸業銀行ノ有タラシメ之ニ由リテ益々多ク資金ヲ得、其ノ獲タルモノヲ農工銀行
ノ手ヲ經テ適宜ニ各地方ニ貸出サシメント欲スル者デアル。サレバ右ノ如ク此所ニ此ヲ論ズルハ
唯ダ此ノ特權ニ對シテ不都合ヲ生ズルト云フコトノ爲メニ制度其物ヲ更メ不條理ヲ犯シテ中央集
權的ナル勸業銀行ニ主トシテ地方貸付ヲ行ハシメ、地方分散的ナル農工銀行ニ市街地貸付ヲ自由
ニ行ハシメントスルコトノ實以テ不可ナルヲ指摘セムガ爲メデアル。何レニシテモ中央集權的ナ
ルモノニ地方貸付ヲ行ハシメ、地方分散的ナルモノニ市街地貸付ヲ行ハシメントスルコトハ制度
トシテハ不條理デアル、從テ不正當デアル、不適合デアル。

農業ト云フモノハ其ノ本來ノ性質ガ地方的ノモノナルコトハ爭フ可ラザル所デアリ、其ノ金融
機關ノ如キモ從テ地方々々ニ於テ自然的ニ發達セル經濟狀態ニ適應セルモノタルヲ要スルヤ既述
ノ如クナリトスレバ、折角地方分權的ニ出來上リタル現制度ヲ打破シ、之ニ代フルニ中央集權
制ヲ以テセントスルニハ、十二分ナル理由ガナクテハナラヌ。唯ダ漫然ト現時ノ經濟界ノ狀勢ガ

集合統一ニ由ル大規模經營ヲ有利トスルト云フダケノコトデハ甚ダ以テ不十分デアル。彼ノ大工業ヤ大商業ノ如キニ於ケル大企業ニ在リテハ成程集中的ナル統一ノ勢ガ著明デ且ツ有利デアルケレドモ、農業ヤ地方ノ小工業ノ如キニ在リテハ決シテ一概ニ其ノ集中統一ノ勢ノ有利ナルヲ云フ可キデハナイ。特ニ農業經營ニ在リテハ其ガ益々分化シテ小規模ナル集の經營ニ移行行クノ實狀モアル位デアツテ、之ニ對シテ全國畫一的ナル政策ノ行ヒ難ク、中央集權的ニ統一サレタル機關ニ依リテ其ノ發達ヲ計ルコトノ寧ロ困難ナル場合却ツテ多キヲ思ハナクテハナラヌ。

此事情ハ從テ又之ヲ彼ノ産業組合ノ如キニ就キテ見ルモ同様デアツテ、ソガ地方ニ根生ヘシ地方ノ地盤ノ上ニ發達ス可キモノタルヤ其ノ本來ノ性質デアアル。人若シ産業組合ノ性質中ヨリ其ノ地方的ナル性質ヲ否認セムトスルガ如キアラバ、其ハ全ク産業組合本來ノ性質ヲ辨ヘザル者ト謂ハネバナラヌ。サレバ今産業組合ニ對シテ其ノ共通ナル金融機關ヲ設クルノ必要ヲ見ル場合ニ於テモ、問題ハ勸銀農工ノ問題ニ於ケルト同様デアツテ、其ノ成可ク地方分權的ナルヲ可トシ又之ヲ必要トスルヤ吾人ノ信ジテ疑フ能ハザル所デアアル。

然ルニ頃者行ハルル計畫ニ依レバ之ヲ勸業銀行對農工銀行ノ問題ト關聯セシメ、各府縣ノ有スル農工銀行ノ持株ガ恰モ本年ヲ以テ利益配當ヲ受ク可キ時期ニ會セルヲ機トシ、若シ勸銀農工ノ合併成立セル曉ニハ其ノ各府縣持株ヲ以テ、若シ合併不成立ノ場合ニハ各府縣ノ持株ニ對スル配當金ヲ以テ全國唯一ノ産業組合中央銀行ヲ組織シ以テ全國ノ産業組合ニ對スル貸付預金等ノ業務ヲ行ハシメントセラレツツアルヤウデアアル。

此ノ計畫ノ如キモ吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ甚ダ其當ヲ得ザルモノタルノ譏ヲ免ルルコトガ出來ス。産業組合ノ共通ナル金融機關ノ如キモ成ル可クハ之ヲ地方々々ニ於テ自然ノ必要ニ應ジテ自ラ發生發達セシムルガ至當デアツテ、其ノ發生發達ヲ促シ又之ヲ扶クルガ爲メニ中央政府ガ或ハ之ニ補助金ヲ交付スルガ如キハ差支ナク又或場合ニハ必要ナコトデアアル。然ルニ今之ヲ逆ニシテ折角各府縣ガ有スル農工銀行ノ持株ヲバ中央ニ取上ゲ之ヲ以テ統一的ナル中央金融機關ヲ設ケントスルガ如キハ、實ニ又條理轉倒ノ遣方ト謂ハナケレバナラス。各府縣ノ有スル持株ハ縱令其ノ金額ニ於テ個々府縣當リハ小額ナリトハ云へ、元之レ地方ノ所有ニ係ル純地方的ノ資金デアアル、之ハ成可ク其ノ地方ニ留メ置キテ然ル可キデアツテ不必要ナル贍立ノ爲メニ猥リニ之ヲ中央ニ取上ゲ可キモノデハナイ。何故不必要ナル贍立ト云フカト謂へバ、我國ノ現狀ニ於ケル産業組合ハマダ其ノ發達ノ程度ガ中央銀行ヲ必要トスル迄ニ進ミ居ラズ、全國ニ於ケル其數コソ一萬二千餘ニ達シ居レ、其ノ發達ノ實狀ヨリ云へバ、現下及ビ近キ將來ニ對スル必要ニ應ズルガ爲メニハ從來ノ如ク日本勸業銀行ヲシテ其ノ中央金融機關トシテノ任務ニ當ラシメテ十分デアアル。若シ勸業銀從來ノ業務振リニ不満足ノ點アラバ之ヲ改善スルハ大ニ必要デアルケレドモ、今俄カニ之ガ爲メニ新タナル中央機關ヲ設クルノ必要ハナイ。

更ニハ又斯カル産業組合ノ中央銀行ヲ設クルトモ之ヲ暫クハ日本勸業銀行ニ委任經營セシメントスルノ計畫ナルニ於テハ眞ニ此レ蛇足ヲ畫クモノデアアル。從來ノ如ク之ヲ勸業銀行ノ業務ニ委セ置ケバ勸業銀行ニテ獨力ニテ優ニ之ヲ爲シ得ル所ノモノヲ、今各府縣ノ農工銀行持株ヲマ

テ取上ゲテ新ナル機關ヲ造リ然カモ之ガ經營ヲ勸業銀行ニ委任スルト云フニ至リテハ、其果シテ何ノ意ナルヤヲ知ルニ苦ム次第デアル。斯カルモノヲ造ルハ半身不隨ナル一贅物ヲ又一ツ新タニ設クル迄ノ事デアツテ、其働ノ不十分ナル可キハ今ヨリ之ヲ逆睹シ得可キ所デアル。之ガ爲メニ方々ニ迷惑ヲ掛ケテ然カモ何一ツ得ル所ハナイデアラウ。勸業銀行トテモ斯カル委任ヲ受クルハ蓋シ難有迷惑タルニ外ナラザル可ク、其ノ成績ノ十分ニ上ガリ得ザル可キハ豫言者ナラズトモ之ヲ知ルニ難カラザル所デアル。

兎角我國ニ在リテハ瞻立バカリ整ヒテ事業ノ實驗ノ上ラヌノガ從來ノ通弊デアル。特ニ政府ノ事業ニ於テ其弊アルヲ見ル所デアル。而シテ又更ニハ十分慎重ナル研究モ重キズシテ急ニ瞻立ヲ調へ、暫ク遣ツテ見テ事業成績ノ上ガラザレバ又輕卒ニ瞻立ヲ造リ直シテ毫モ惜マズ、造リテハ更へ更へテハ造リ、常ニ唯之レ瞻立ニノミ急ガシキハ大イナル我が國政ノ弊害ナリト謂ハネバラヌ。殊ニ又近頃ハ獨逸風ニカブレテ組織々々ト云フ言葉ノ流行スルヤウデアルガ、獨逸ノ組織ノ成功スルハ其素地ノ十分ニ養ハレ、組織ノ出來上ル前ニ既ニ實地ノ成績ノ可也好ク上ガリ居ルヲ取り來リテ之ヲ組成シ之ヲ調整スルカラノコトデアル。素地ノ無ク又其ノ未ダ十分ニ養ハレザルモノニ對シテ、組織バカリヲ如何ニ立派ニスルトモ、ソハ蓋シ砂上ノ樓閣タルニ過ギヌ。御馳走ノ内容ナクシテ器バカリ美麗ナル瞻立タルニ過ギヌ。經濟政策ニ於テハ特ニ一層形式ヨリモ内容ヲ重ンズルモノナルコトヲ忘レテハナラヌ。

要スルニ吾人ハ以上ノ見解ニ由リ農工金融機關ハ地方的ナルヲ可トシ、此意味ニ於テ其ノ組織

ハ大體ニ於テ現狀ヲ可トシ唯ダ其働ヲシテ今少シク十分ナルヲ得セシム可キヤウ、之ガ改善策ヲ講ズルヲ以テ當ヲ得タルモノナリト信ズル。根本的ニ之ガ組織ヲ改造スルニハ十二分ナル理由ノ存シ又新組織ノ必ズヤ遙カニ有効善美ナルコトノ疑フ可ラザルモノナルヲ必要トスル。其ノ理由ノ十分ナラズ又新制度ノ確カニ更ニ有効ナル可キコトノ信ゼラレザル限り、猥リニ現狀ヲ革ムルノ可ナル所以ヲ見出し得ザルモノデアアル。唯徒ラニ組織ヲ變更スルガ能事ニモアラザレバ、其ノ方面ノ事ハ今少シク慎重ニ講究スル事ト爲シ、暫クハ唯ダ現制度ノ上ニ於ケル改善ニ由リテ實際的發達ヲ促シ、其ノ發達ニ由リテ自ラ組織制度ノ出來上ルヤウ努メタキモノデアアル。其ノ研究ハ平素十分之ヲ行フコトナクシテ、唯ダ一時ノ經濟界ノ變調ヨリ來ル事情ノ困難ヲ見テ遽カニ制度ノ根本的改革ヲ企テ、然カモ條理ヲ無視シテ方便的政策ヲ行ハントスルガ如キハ、吾人ノ組ミシ能ハザル所デアアル。然リト雖ドモ請フ吾人ヲ以テ現狀ニ満足シ徒ラニ保守ノ議論ヲ爲ス者トナスコト勿レ。唯ダ條理ニ從ヒ着實ニ一步步々進ミ行クガ最モ捷キ進步ノ方法タルヲ知ラナケレバナラヌ。而シテ吾人ハ此事經濟政策ニ於テ——特ニ農業ニ關スル方面ニ於テ然ルヲ思フモノデアアル。

(終)